

稲作情報

令和3年度第1号

令和3年4月15日発行

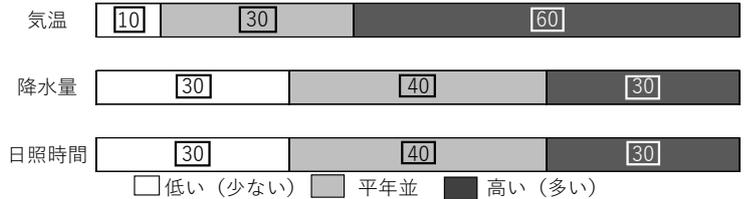
福島県喜多方農業普及所、JA会津よつば、

(育苗時の注意点、田植え準備、雑草イネ対策) 喜多方市、北塩原村、西会津町

天気予報

- ・天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
- ・向こう1か月の平均気温は、高い確率が60%、降水量・日照時間は、ともに平年並みの確率が40%です。

<1か月予報> (4/1 仙台管区气象台 発表)



育苗期間に注意する病害と防除

- ・育苗期間中は高温が予想されているため、ハウスの開閉や灌水量に注意し、苗を焼かないようにしてください。
- ・育苗期間に発生する主な病害は次のとおりです。

病害名	病気の特徴	発生要因	防除薬剤
苗立枯病 (フザリウム)	・根や苗の地際部が褐変し、のちに黄化・枯死する。 ・苗の基部や籾の周りに白色やピンク色のカビが生える。	・床土のpHが5.0以上 ・緑化期間中の極端な温度変化や10℃以下の低温 ・床土の乾燥と過湿の繰り返し	タチガレエースM液剤
ムレ苗 (ピシウム)	・2~3葉期頃に急にしおれ枯死する。 ・地際部や土壌表面にカビが生えない。	・10℃以下の低温	タチガレエースM液剤 ナエファインフロアブル
苗立枯病 (リゾープス)	・出芽時に籾の周囲や床土表面に白い綿毛状のカビが生じ、急速に繁殖して育苗箱全面を覆うこともある。	・出芽期の32℃以上の高温 ・緑化期以降の10℃以下の低温 ・床土の過湿 ・厚播き ・前年発生した場合は育苗箱等が第1次伝染源となりやすい	ダコニール1000
もみ枯細菌病	・葉鞘は褐変、心葉は葉身基部が白色になり、腐敗して簡単に引き抜ける。	・罹病種子が第1次感染源となる ・播種後10日頃までの32℃以上の高温	発生後に使用できる薬剤は無いため、予防に努める。

★農薬を使用する際には、必ずラベルと最新の登録内容を確認し、使用基準を守りましょう。

田植え準備

(1) 畦畔の点検と補修

- ・水管理が適切に行えるよう、畦塗りなどの漏水防止対策を確実に実施しましょう。

(2) 田植え時期

- ・高温登熟障害をできるだけ回避するためにも、極端な早植えは避けましょう。
- ・田植えは無理をせず、できる限り風のない暖かい日を選んで行いましょう。

(田植え時の気温の目安)

稚苗：日平均気温13℃以上

中苗：日平均気温14℃以上

(3) 病虫害防除 (箱処理剤)

- ・除草剤と間違えて散布しないように、よく確認してから使用してください。
- ・農薬を使用する時は、容器や袋に記載されている農薬使用基準及び使用方法をよく確認しましょう。
- ・ハウス内で箱処理剤を施用する時は、こぼれても影響が小さくなるようシートを敷く等してください。
後作をハウス内で作付する時は特に注意が必要です。

薬剤名	主な適用病虫害	使用時期
デジタルコラトップアクタラ箱粒剤	いもち病、イネミズゾウムシ、 イネドロオイムシ	-
デジタルメガフレア箱粒剤		カメムシ類
Dr.オリゼパディート粒剤	-	-
		ニカメイチュウ、フタオビ コヤガ、イネツトムシ
ルーチンアドスピノ箱粒剤	いもち病、イネミズゾウムシ、イネド ロオイムシ、イネヒメハモグリバエ	コブノメイガ、ニカメイ チュウ、フタオビコヤガ、 イネツトムシ

※上記4剤の使用量は、「全て育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5リットル)1箱当たり50g」です。

雑草イネ対策

- ・雑草イネの発生前に、効果のある除草剤を散布することが肝心です。
- ・雑草イネが発生するほ場では、①エリジャン乳剤(植代時)+②ベッカク1キロ粒剤(移植時)の組み合わせによる体系処理が効果的です。

肥培管理(基肥の施用量)

- ・品質及び食味を向上させるため、適正な施肥を行います。
- ・各品種の窒素施用量は右図を目安に行ってください。
- ・毎年稲わらを持ち出し、堆肥を施用していない水田等では、
土壌中のカリ含量が低下している恐れがありますので、塩化
カリの上乗せ施肥を行います。

	窒素成分量 (kg/10a)		
	基肥	追肥	合計
コシヒカリ	4	2	6
ひとめぼれ	6	2	8
天のつぶ	6~8	2	8~10
里山のつぶ			
ふくひびき	7~8	2	9~10

春の農作業安全運動重点推進期間 4月1日~5月31日
基本を守り、安全・安心な農作業に努めましょう!

★本情報の内容や米づくりに関するお問合わせ、相談はこちらへどうぞ
 会津農林事務所喜多方農業普及所 TEL 0241-24-5744
 JA会津よつば 喜多方営農経済センター営農振興課 TEL 0241-21-1801